

志賀の里 志賀小学校だより

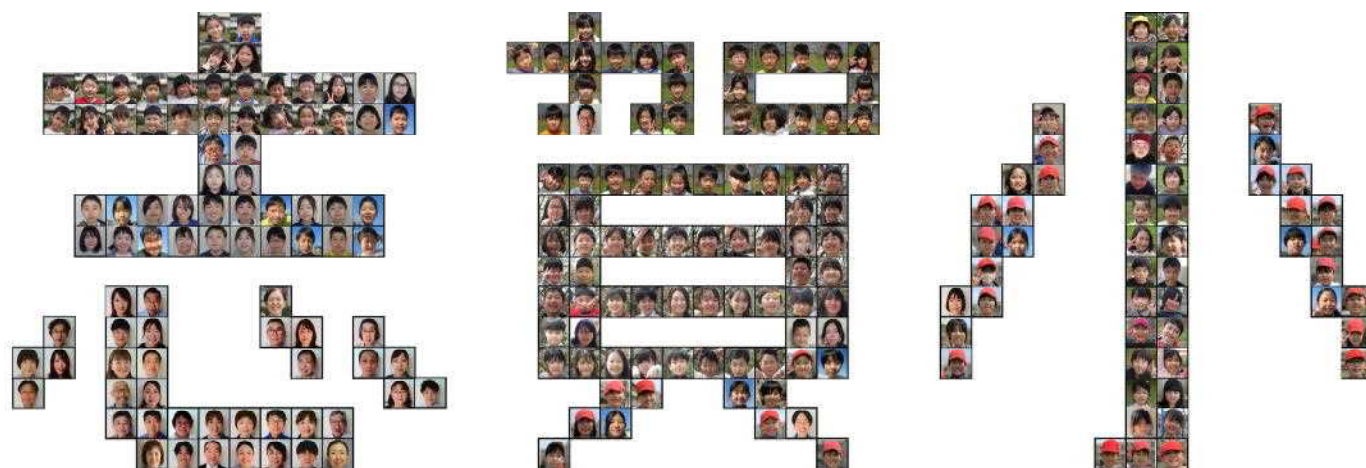


学校教育目標：かしこく なかよく たくましく
めざす学校像：志を高く 喜びにあふれ 未来へ翔ける学校
めざす児童像：「3つの心」がきらめく志賀翔っ子(志の心・賀の心・翔の心)



令和8年9月号

2学期がスタート！まずはリズムのある生活を



45日間の長い夏休みでしたが、酷暑の中、大きな事故や怪我などの報告もなく、夏休みを安全に過ごしてくれたことは何よりです。2学期が始まり、学校も子供たちのキラキラした表情やにぎやかで明るい声に包まれ、子供たちの活気が各教室に帰ってきました。

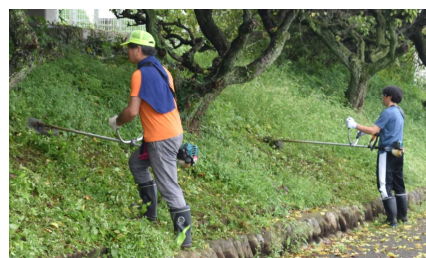
さて、2学期はスタートしましたが、長い休みのあとで、なかなか「生活のリズム」を戻すのが大変だったり、気が重かったりする子供たちも多いことでしょう。まずは、「生活のリズム」を「学校モード」に戻すことが第一です。そして、「生活のリズム」を戻すためには、「早寝、早起き、朝ご飯」が一番です。リズムが整うことによって、体力や気力も生み出されます。ご家庭でも、規則正しい「生活リズム」に戻せるようご協力ください。

2学期も引き続きご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

除草作業のご協力に感謝

「地域と共にある学校づくり」を目指して日頃よりお世話になっている学校運営協議会に主催していただき、8月30日(日)に除草作業が行われました。当日は、降雨が心配される天候であったにもかかわらず、早朝より多数の地域や保護者、児童の皆様にご参加をいただき、誠にありがとうございました。おかげさまで校地内が見違えるようにきれいになり、安心して2学期のスタートを迎えることができました。

今後も地域の力をお借りしながら、地域に愛される学校、地域に誇れる学校を目指してまいります。



大地震に備えて

7月28日に熊本県で震度7の揺れを観測したマグニチュード7.1の巨大地震が、家屋の倒壊や火災、土砂崩れなどを引き起こし、甚大な被害をもたらしました。家屋を無くした方や大切な人の命を亡くされた方も大勢おられます。また、千葉県や北陸地方においても豪雨による災害に見舞われました。いずれの地域も今なお、懸命な復旧作業が続いています。被害に遭われた皆様のご心痛を思うと言葉も見当たりません。一日も早い復興を心からお祈りいたします。

そのような中、私自身も被災地の皆様のために何かできることはないかと考え、とある団体の支援活動に3日間参加し、水や食料、衛生用品など多くの物資を熊本(八代市、氷川町)に届けに行っていました。現地では、被災された方々の大変な状況に触れ、改めて助け合いの大切さを実感しました。志賀小としても何かの力になれるよう、職員や児童らと共に考えてまいりたいと思っています。

ここ数ヶ月の間に、熊本県以外にも岩手県、山梨県、茨城県、沖縄県など全国各地で震度5以上の大きな地震が頻発しています。直近では、埼玉県でも8月23日に震度5弱を観測したことはまだ記憶に新しいところかと思えます。今後は南海トラフ地震も心配される場所ですが、学校においては、日頃から避難訓練や引き渡し訓練を行い、もしもの時に備えて、これからも児童の防災意識を高めてまいります。学校だけでなくご家庭におかれましても、避難場所や緊急時の対応などについて、話し合っておいていただければと考えています。「備えあれば憂いなし」です。



高校球児から学ぶ

私は野球が大好きで、夏休み期間中も夏の甲子園(正式には「全国高校野球選手権大会」)をテレビで見るのを毎年楽しみにしています。今年は和歌山県代表の智弁和歌山高校の優勝で幕を閉じました。

この高校野球では、各選手が全力を尽くすひたむきな姿に、誰もがたくさんの元気や感動をいただいたことと思います。その中でも私がいつも印象に残ることは、試合後や優勝報告会での選手たちの言葉です。

「最高の仲間と、最高の舞台で優勝できて本当によかった」、「仲間に最後まで助けてもらった」、「ずっと、日本一になろうって言い続けていたので、それが言霊のように実現して嬉しい」、「メンバー外の仲間全員が力を貸してくれた。優勝は全員で戦った結果なので嬉しい」、「ここまで応援してくれたスタンドには、ありがとうを伝えたい」、「いろいろな人への感謝の気持ちでいっぱい」、「親や支えてくれた人たちに恩返しできてよかった」など。

これらはどれも大事な言葉であり、今後の私たちの学校生活にも通ずる大切な言葉ばかりだと感じました。「最後まで諦めない粘り強さ」、「夢や目標に向けた努力」、「協力や一致団結」、「お世話になった方々への感謝の気持ち」など、この2学期は志賀小においても、児童の心を育てていけるよう、教育活動に邁進してまいります。

